

深谷市上下水道事業 経営戦略の改定について

令和8年7月29日



目次

- 1. 経営戦略について……………3
- 2. 現行の経営戦略について ……4
- 3. モニタリングについて……………14
- 4. 今後のスケジュールについて……………21

1. 経営戦略について

(1) 経営戦略とは

- ・ 上下水道事業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な計画のこと

(2) 改定について

- ・ 概ね5年で総合的な見直しを行うものとされている ※現計画はR3に策定

2. 現行の経営戦略について

第1編 総則 P.1~P.4

第1章 策定(改定)の背景と目的 P.2

- ・策定の背景と目的
- ・計画期間(R4~R13の10年間)
- ・経営戦略の位置づけ
→他の計画との関連を整理

第2章 経営戦略における経営目標・事後検証 及び改定に関する事項 P.3～P.4

- ・経営目標
 - ①内部留保資金の確保
 - ②経常収支比率 100%以上
 - ③企業債残高の抑制
- ・事後検証及び改定

第2編 水道事業経営戦略 P.5～P.25

第1章 事業概要 P.6～P.12

- ・事業の現況（給水状況や施設の状況等）
- ・これまでの経営健全化の取り組み
 - 職員給与の削減や収納率の向上など
- ・現状分析
 - ほかの事業体との比較など

第2章 将来の事業環境 P.13～P.17

- ・給水人口や水需要の予測
- ・料金収入の見通し
- ・建設改良費及び企業債の見通し
- ・これまでの取組
- ・これからの取組
- ・組織の見通し

第3章 経営の基本方針 P.18

安全で安心な水道水の安定的な供給

- ・安全で安心な水道
- ・安定的な供給
- ・健全経営とサービス向上
- ・環境への貢献

第4章 投資・財政計画(収支計画) P.19~P.25

- ・投資・財政計画(収支計画)
→P.24~P.25のとおり
- ・収支計画に対する説明
- ・今後の取組など

第3編 下水道事業経営戦略 P.27～P.57

第1章 事業概要 P.28～P.33

- ・事業の現況(施設の状況など)
- ・これまでの経営健全化の取り組み
→職員給与の削減や土地活用など
- ・現状分析
→ほかの事業体との比較など

第2章 将来の事業環境 P.34～P.41

- ・処理人口や有収水量の予測
- ・使用料収入の見通し
- ・一般会計繰入金の見通し
- ・建設改良費及び企業債の見通し
- ・これからの取組
- ・組織の見通し

第3章 経営の基本方針 P.42～P.43

快適と安全を提供する持続可能な下水道

- ・快適な生活環境の確保
- ・水環境の保全
- ・独立採算の経営
- ・環境への貢献

第4章 投資・財政計画(収支計画) P.44～P.57

- ・投資・財政計画(収支計画)
 - P.52～P.57のとおり
 - 下水道事業・公共・農集に分かれている
- ・収支計画に対する説明
- ・今後の取組など

3. モニタリングについて

現行計画の計画値と実績値を比較

<社会情勢の変化(国内・国外)>

令和2年 新型コロナウイルス流行でWHOがパンデミック宣言

令和4年 ウクライナ紛争勃発

令和6年 日銀がマイナス金利解除を決定

令和8年 中東情勢の緊迫化

<上下水道事業を取り巻く状況>

- ・円安による輸入物価の上昇
- ・世界的な資源エネルギー価格の高騰
- ・物流費・人件費の上昇 など

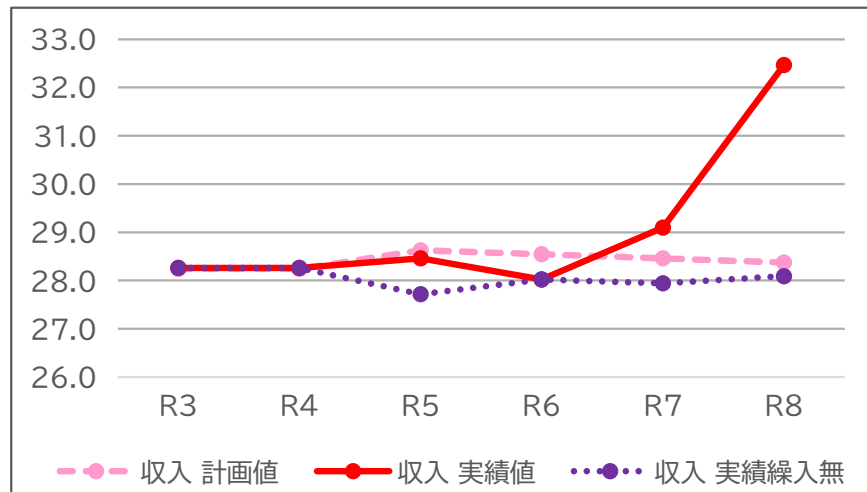
 **物価が上昇** ^{UP} 

水道事業

【収益的収支】R3～R8(予算)までの比較

単位:億円

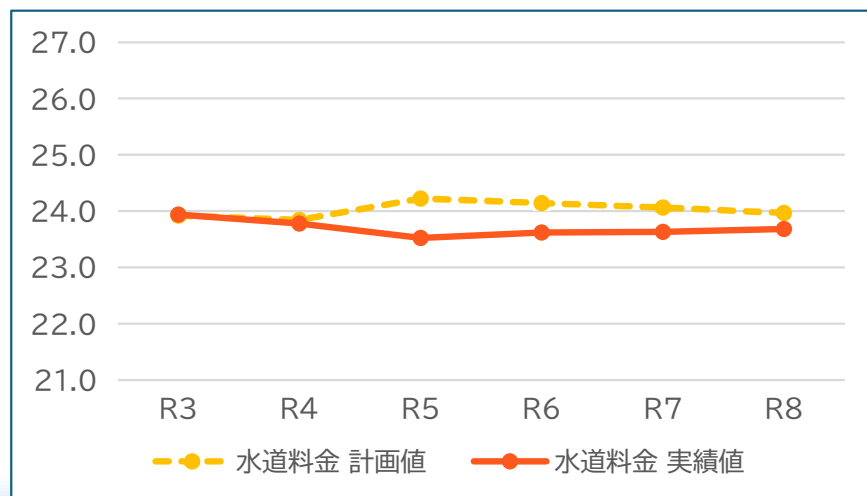
<収入状況>



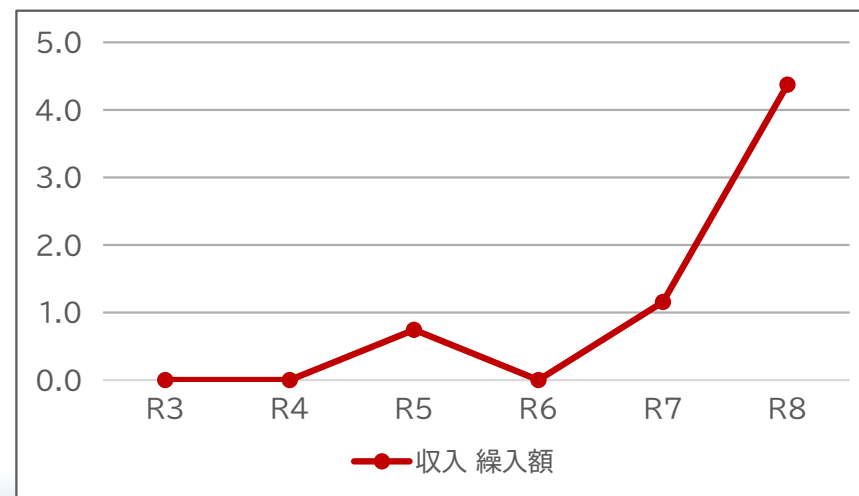
●料金収入(料金減額を補正した場合) 左下:オレンジ
横ばい状態で推移しており、計画値と実績値の差は少ない。

●繰入金(赤字補てん目的に限る) 右下:茶
計画では繰入れはないものとしていたが、物価高騰に対応するため、R5は0.7億円、R7は1.1億円、R8は4.3億円と増加傾向で繰入れている。

料金収入の状況



繰入金の状況(赤字補てん目的のみ)

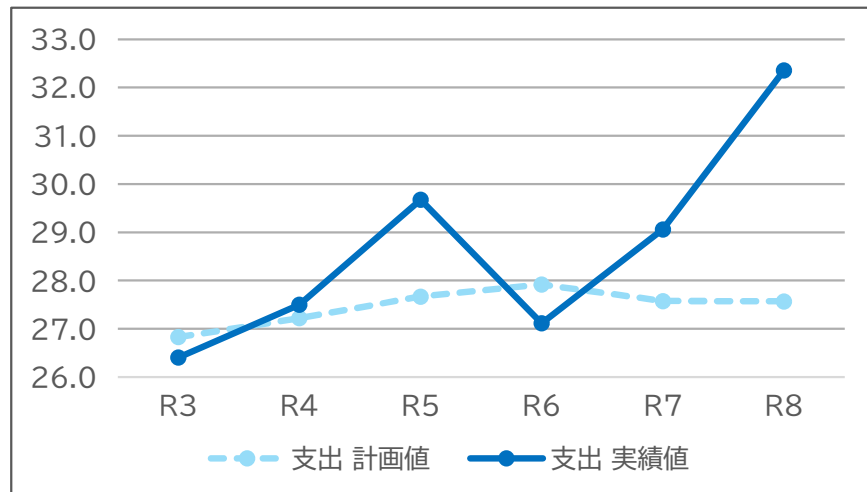


水道事業

【収益的収支】R3～R8(予算)までの比較

単位:億円

<支出状況>



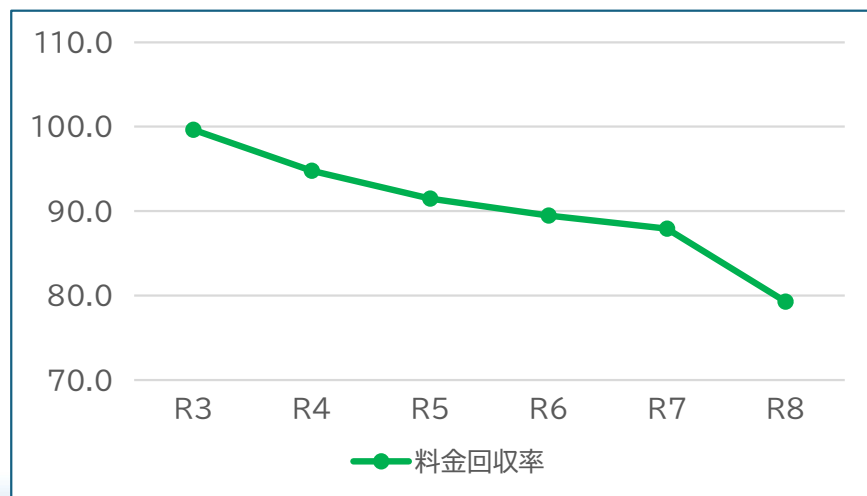
●物価高騰の影響

R4から影響を受け始め、計画値を上回る状況で推移。

●年度別の個別状況

- ・R5は除却費1.6億円を計上
- ・R6は修繕引当金を1.8億円充当した
- ・R7は修繕費の増加(引当金の減)
- ・R8は県水値上げ(影響額+1億円/年)

料金回収率の状況 ※料金で費用をどれだけ賄えているか



<総括>

■収入は事業者向けの供給が増加しているが、繰入金に依存している状況である。

■費用は物価高騰の影響や県水の値上げなど、コントロールが効かない要因により上昇している。

■持続可能な安定した経営を目指すため、料金改定の実施が必要な状況である。

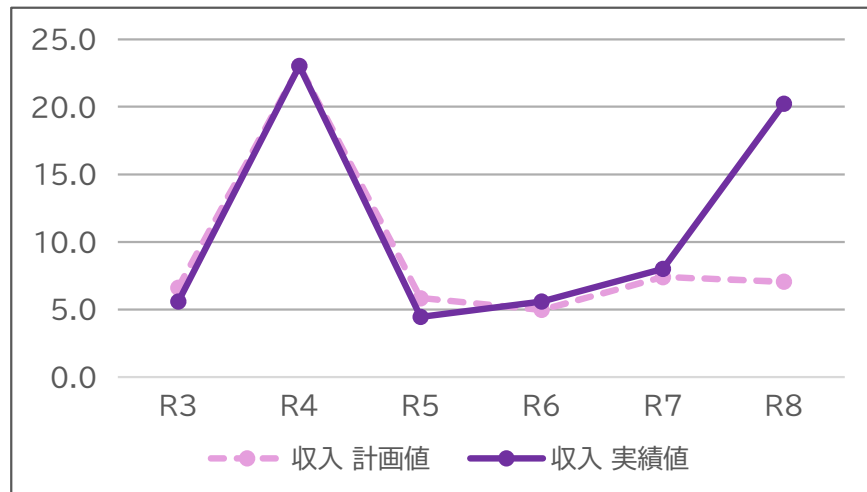
一時的な増減要因を含まないものとして算出(単位:%)

水道事業

【資本的収支】R3～R8(予算)までの比較

単位:億円

<収入状況>



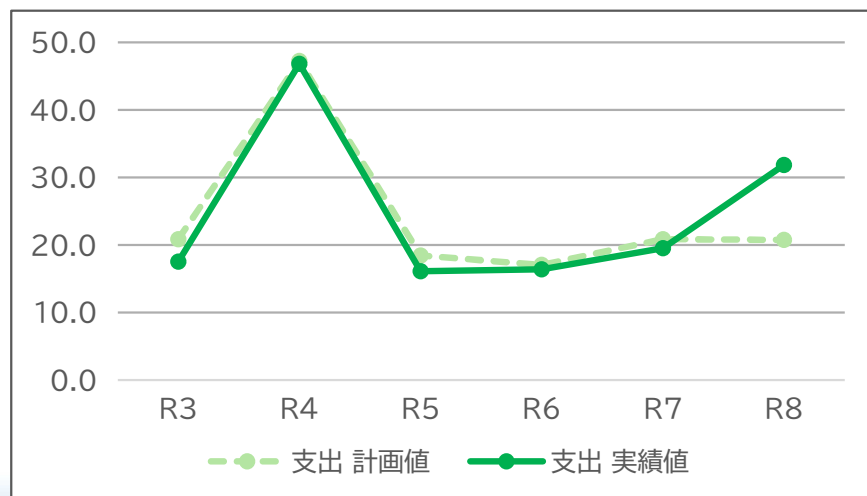
●収入全体

R7までは、ほぼ計画通りに進捗している。
R8は事業費の増加に伴い、企業債が増加し計画値を上回っている。

●R8について

現行の計画策定時には想定していなかった
本田配水場拡張事業などの新規事業の財源
(企業債)を確保した

<支出状況>



●支出全体

R7までは、ほぼ計画通りに進捗している。
R8は事業費の増加に伴い計画値を上回っている。

●R8について

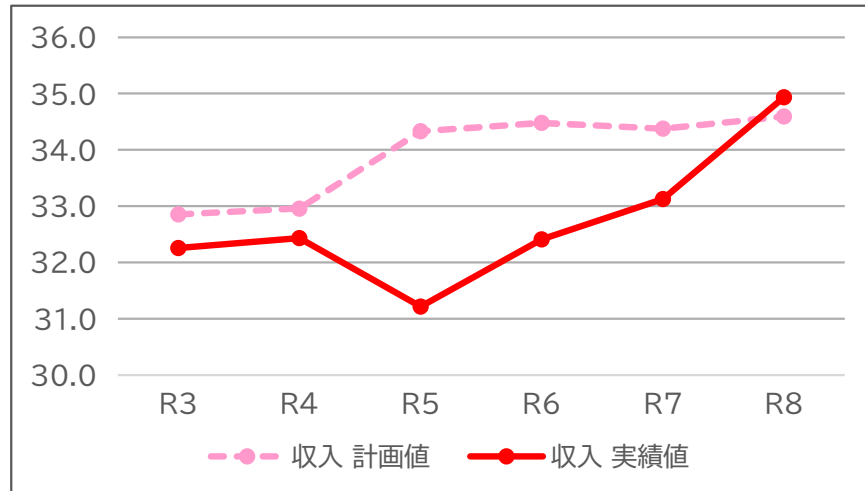
- ・遠方監視装置更新事業(4億円)
- ・老朽管更新事業(6億円)
- ・本田配水場拡張事業(5億円) など

下水道事業

【収益的収支】R3～R8(予算)までの比較(事業全体)

単位:億円

<収入状況>



●使用料収入

計画値よりやや上振れて推移している。

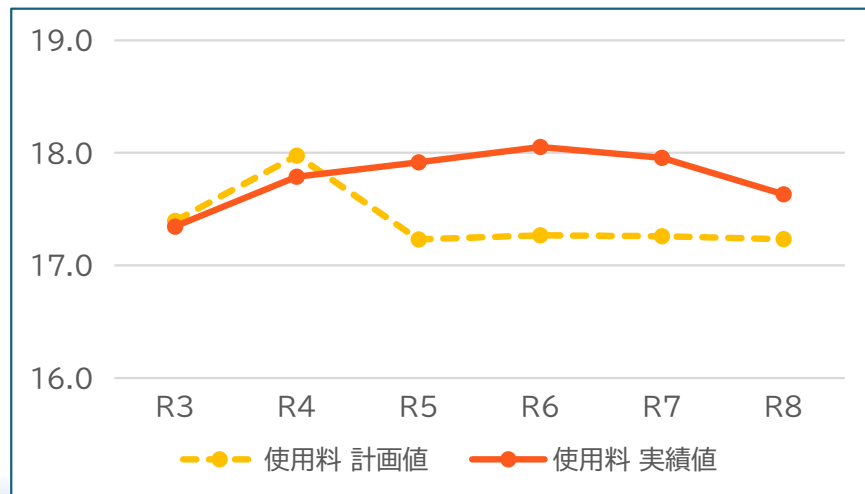
左下:オレンジ

●繰入金の状況

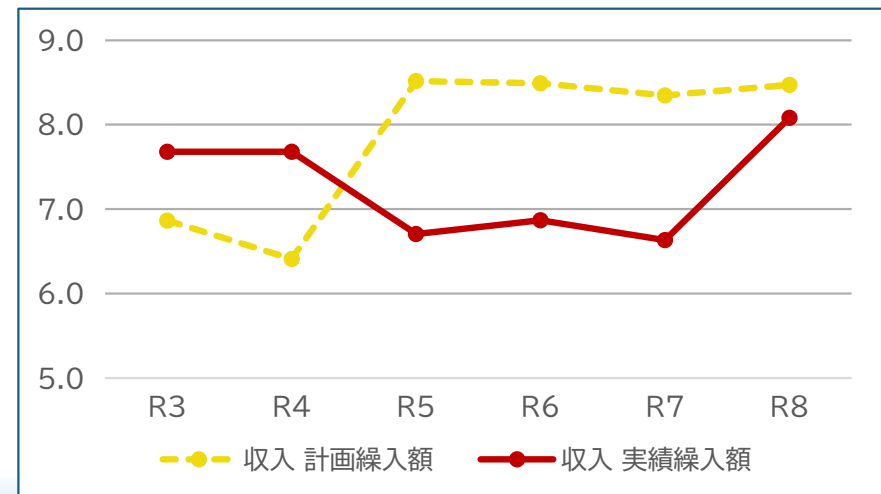
R5～R7は繰入対象の経費が抑制できたため計画値よりも下振れて推移している。しかし、対象経費は増加傾向で、計画値と実績値の差は縮まっており、R8(予算)では逆転した。

右下:茶

使用料収入の状況



繰入金の状況

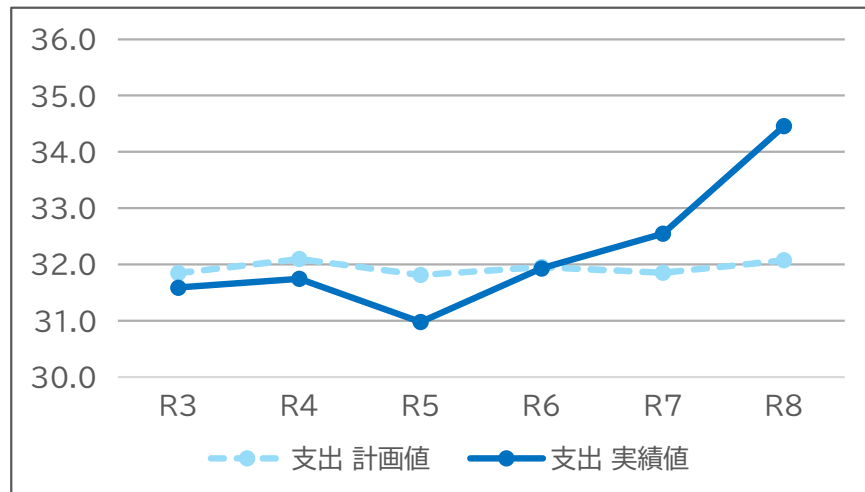


下水道事業

【収益的収支】R3～R8(予算)までの比較(事業全体)

単位:億円

<支出状況>



●物価高騰の影響

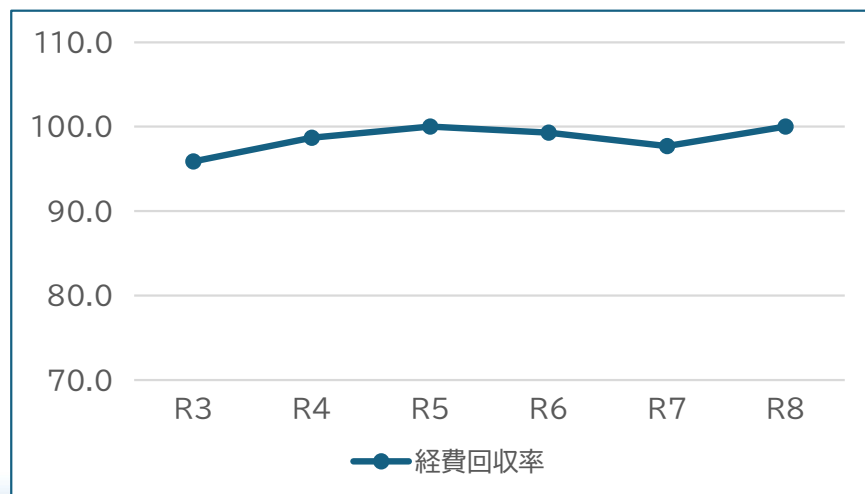
R4から影響を受け始め、徐々に計画値を上回るペースで増加している。なお、R5は動力費の国の補助があったため減少した。

●年度別の個別状況

R3以降、農集から公共へ接続統合が進捗

R3:上原、R5:畠山、R6:大谷西・かしあい、
R7:中通り、R8:永田・北根・長在家東西

経費回収率の状況(単位:%)



<総括>

■収入は公共下水道の面整備の進捗に合わせて増加基調である。

■費用は物価高騰の影響を受けつつも、農集統合等により経済的な運用ができています。

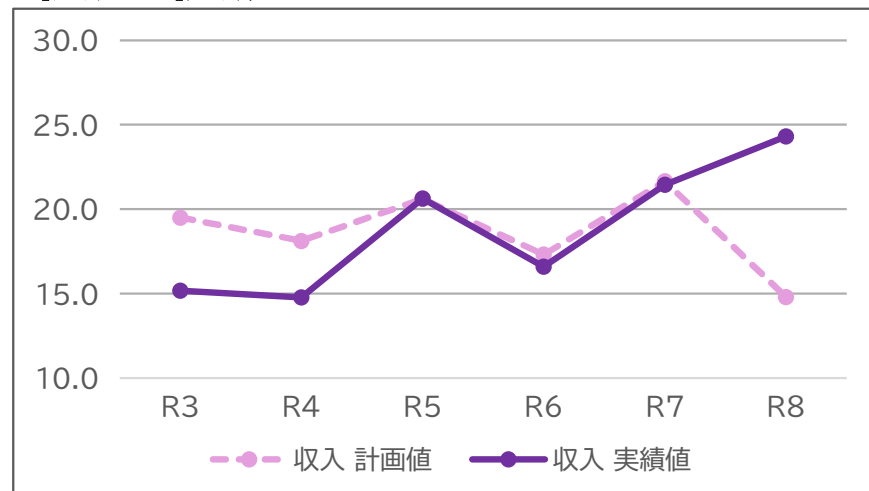
■経費回収率も100%に近い水準で推移しており、安定した経営となっている。

下水道事業

【資本的収支】R3～R8(予算)までの比較(事業全体)

単位:億円

<収入状況>



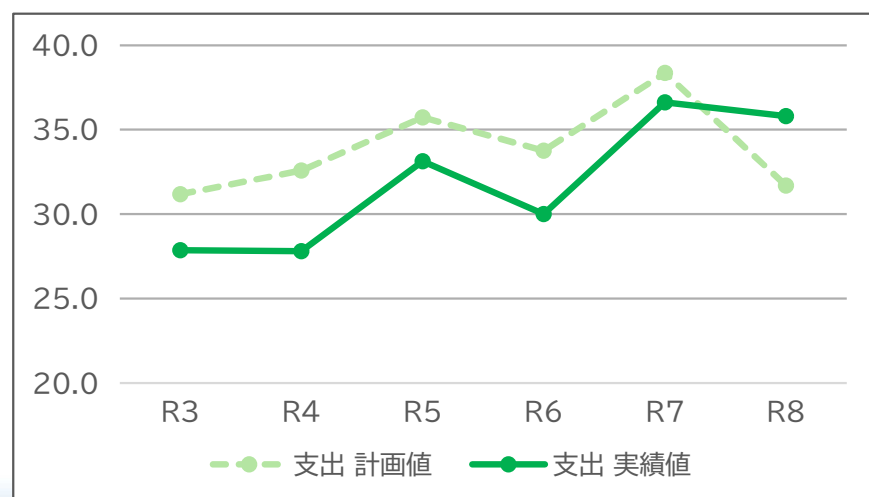
●収入全体

R3～R4は事業の繰越しに伴い計画値をやや下回って推移しているが、R7までは計画通りに進捗している。

●R8について

企業債(資本費平準化債)の制度改正を受けて、事業資金確保のために借入額を増加した。

<支出状況>



●支出全体

R7までは、ほぼ計画通りに進捗している。R8は事業費の増加に伴い計画値を上回っている。

●R8について

- ・公共下水道整備(16億円)
- ・浄化センター更新事業(1.7億円)
- ・農集施設改修等(1.4億円) など

4. 今後のスケジュールについて

現時点でのスケジュール(案)です

審議会	日にち	内容（予定）
第1回	7/29	経営戦略の改定について
第2回	8/27	改定内容の確認について
第3回	9/29	経営戦略の改定の承認について
第4回	10/27	料金改定について① 諮問
第5回	11/19-20	料金改定について②
第6回	12/23-24	料金改定内容の決定について
第7回	1/27-29	答申案の確認について 答申_(2月)

←今回

※「19-20」等の表記は、このうちいずれかの日という意味です